

お知らせ

■平成 20 年度総会及び交流会へのお誘い

○日程と会場 11/1 (土)

<見学会> 13:00~

飯山市岳北クリーンセンター
建設現場 (北野建設)

<総会> 16:00~

建築学科棟 2 階 202 教室

<交流会> 17:00~

学生 & 先生方 & OB・OG

との交流会

場所: 工学部喫茶メモリー
宿泊: 各自手配

○出欠の連絡先

出欠の連絡・問合せは、メールにてお願いいたします。

poplarclub_shinshu@yahoo.co.jp

■会費納入のお願い

ポプラ倶楽部の運営経費は、会費によって賄われています。

10 年分 (21,000 円) 会費の一括納入者以外の皆様には、今回振込用紙を同封させていただきました。同窓会の趣旨と活動には是非ご賛同いただき、下記いずれかの会費の納入をお願いいたします。

○単年度会費: 3,000 円/年

○10 年分会費: 21,000 円

■メーリングリストへ登録を

全国で活躍する会員に、素早く、確実に情報を伝えるために、今後はメーリングリストをより活用したいと考えています。未登録の方は今すぐ登録を!

○ホームページ

www.geocities.jp/poplarclub_shinshu/

○メーリングリスト

[//groups.yahoo.co.jp/group/shindai-kenchiku/](http://groups.yahoo.co.jp/group/shindai-kenchiku/)

■現役学生との連携について

現役との連携を深め、より確実な同窓会運営を行うため、今回、同窓会事務の一部 (直近の卒業生データの入力や、名簿メンテナンス) について現役生への委託を試行的に実施しています。

今後、先生方のご協力をいただきながら、より効率的な運営体制を構築したいと思いますのでご理解とご協力をお願いいたします。

ポプラ倶楽部通信

信大建築同窓会 ポプラ倶楽部
2008 年 10 月 10 日 第 5 号

昨年度総会で山下先生に感謝の意を

ポプラ倶楽部会長 新井浩一 (1 期生・北野建設)

昨年度の 12 月 1 日の総会時には、「山下恭弘先生ご退職記念講演及び記念パーティー」と新しい試みとして「設計製図セレクション」を開催しました。全国から集まっていた卒業生の皆様には感謝いたします。

山下先生の講演では、これまでの取り組みと共に、私たち 1 期生からのたくさんのお話をいただきました。また、パーティー挨拶時の研究室 OB からの言葉には、恩師でありながら親父的存在であった先生の人柄を改めて感じる事ができました。パーティーは笑いとおやかな雰囲気の中で、私たちが日常生活から離れた懐か

しい世界へと誘ってくれました。

さて、「設計製図セレクション」は、現役学生による研究室の紹介や設計製図のプレゼンを行い、卒業がコメントをするというものです。

プレゼンしてくれた学生諸君には、現実社会からみた厳しい意見もあったかもしれませんが。私たち彼らの発想に新鮮さを感じ、お互いいい刺激となる企画でした。

ポプラ倶楽部では、このような企画を続けたいと考えています。ポプラ倶楽部は皆様あつての集まりです。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。



「設計製図セレクション」の様子



パーティー後の記念写真

社会開発工学科から建築学科へ

平成 20 年 4 月 1 日から改組になり社会開発工学科建築コースから建築学科となりました。

学生数は 1 年生が 53 名、2 年生が 51 名、3 年生が 58 名、4 年生が 72 名です。大学院生は修士 1 年生が 23 名、修士 2 年生が 35 名です。

教員構成は、歴史計画系が土本俊和教授、柳瀬亮太講師、早見洋平講師の 3 教員が担当。意匠設計系は、坂牛卓准教授、梅干野成央助教の 2 教員が担当。構造防災系は中込忠男教授、田守伸一郎准教授、五十田博准教授の 3 教員が担当。環境設備系は浅野良晴教授、高木直樹教授、高村秀紀助教の 3 教員が担当されています。

また、岩井一博技術専門職員は教育支援などを担当。松澤宇喜教務助手が学科の事務を担当されています。建築設計製図の非常勤講師としては、片倉隆幸先生、川上恵一先生、広瀬毅先

生にご指導いただいております。また、建築法規の非常勤講師として坂田健二先生にご指導いただいております。

建築学科棟 2 つあった教室のうち 1 つは五十田准教授の研究室となっています。もう 1 つの教室は黒板がホワイトボードに変わり、天吊りのプロジェクターも設置され、エアコンも今後設置される予定とのことでした。

建築学科のホームページが新しくなりました。是非ご覧ください。

<http://www.eng.cs.shinshu-u.ac.jp/cgi-bin/arch/wiki.cgi>

※裏面は山下先生からの寄稿

同窓会寄稿 山下恭弘

皆さんこんにちは、私は今年平成18年3月をもって定年退職をしました社会開発工学科建築コースの教授でありました山下恭弘です。信州大学に赴任しまして、26年間信州大学で教育・研究に携わってどうやら無事に終えることができました。これも私に心の張りを与えてくれました建築コースの学生諸君・社会人としてDR入学された諸氏、そして工学部の教職員の皆様を支えられてのことでありまして、深く感謝いたします。私は、工学部の第9番目の学科として建築工学科が昭和56年に開設された翌年の10月から助教授として赴任しました。校舎は新しかったのですが、何も無いstartでした。少ない校費をあれこれ工夫して4月からの講義、研究に備えた記憶があります。今では当たり前ですが、当時から講座制ではなく研究室単位の活動が認められていたことでした。第1回の卒業生が配属されたの最初の活動は、ベニヤ板を購入して本棚などを自作するとか、測定器の接続器具などの部品を購入してケーブルなどを手作りしたなど、学生諸君と真剣に取り組んだことでした。この考えが基本となって定年まで教育・研究生活を続けて過ごすことができました。

研究テーマは、赴任前の研究から別なテーマを模索することが数年続きました。その間は、計測システムの整備、簡易無響室・残響室の音響特性測定とか長野市内の環境騒音調査をしていました。そんなとき戸建住宅の床衝撃音低減対策に厚さ37mmの外装材用の発泡コンクリート板を床板と根太上の間に挟みこむ工法に取り掛かり、床衝撃音を低減させる木造住宅に適する工法に仕上げました。その間、学年進行で大学院ができて1回生を大学院に入学させるのに説得したことを思い出します。なにしろ学生諸君は卒業と

進学について何もわからない状態で、私が言ってもどう判断したらいいか戸惑ったからでした。そんな環境はいつの間にか大学院進学希望者が学部卒業者の半数以上になってきたことはうれしいことです。ほかに地域の研究テーマとして、産学連携で「信州の快適な住まいを考える会」を設立して、住宅の高気密高断熱住宅を長野に導入することでした。建築音響に加えて住宅の温熱環境に関わることになり、そのとき以来、音組と熱組の2研究体制を続けることになりました。助教授から教授に昇進して学科で先ず実行したことは、電気容量の再配分と研究室を2室から3室の増室と分野ごとに研究室を再配置して、10年ごとに研究室をローテーションすることを決めたことです。そのころ工学部は、9学科から5学科になって建築と土木が社会開発工学科に改称され、定員が95名になったことです。博士後期課程もできました。ですが学科の統合とは違って、建築と土木の2コース制となりました。いい面もありましたが、困った面は学生の希望と配属に気がつかうことでした。建築を勉強したい学生ができなくなることは、心痛むことでした。

学生の就職ですが、時代に左右されることです。教授になってまもなくの平成元年の就職状況は、ものすごく良好で学生はどこでもいける状況でした。頭に引っかけたことは、学生の成績はどうでもよく、体さえ健康であれば誰でも取りますと人事担当者は言っていたことです。それがバブル崩壊後の10年後は、学生の受難時代でした。特に女子は悲惨でした。そのときの人事担当は、男子で成績がよくても必ずしも採用できるわけではないと言ったことです。そのころの男子、とりわけ女子は、現在満足した職についているが

気がかりに感じています。

ですがこのところバブル崩壊の影響も表面的には解消され、経済が好調に向かってきて、ここ数年は好景気といわれて就職も順調でした。それがこの9月に米国発のサブプライム問題が急浮上して世界的な不況に向かっていきます。それがまた就職不況に向かう様相が出てきて大変に心配しております。

研究費についてですが、このところ毎年削減されてきて昨年には、大学院学生を抱えても50万円くらいにしかならなくなりました。科学研究費ほか各種助成金申請を奨励しているからで、若手研究者にとって厳しい状況になってきています。どこかおかしな状況になってきていると憂慮しています。産学研の場合、大学だからこの程度でいいだろうとか、学生がやって失敗してしまったなどは絶対に許されないことを心がけるべきです。そして誠意を持って研究成果をまとめることが大切です。さらに地域とのつながり大切に考え、いろいろな意味で根を絶やさないように育てていく気持ちが大切になると考えています。幸いなことに私は殆ど困ることはありませんでした。産学研が切れ目がなく続いてきたからです。結果として集合住宅の床衝撃音の研究で、博士(工学)が3名、建築音響で9名、温熱環境で2名を世に送り出すことができました。このうち4名は准教授、非常勤講師になっており、また助手として研究室の学

生諸君を指導してくれた2名は、現在それぞれ大学の準教授になっています。また、数名はいずれ教職につこうと意欲を持っているようで、これからが楽しみです。

定年なってもうれしいことは、建築工学科から社会開発工学科、そして今年から念願の建築学科として独立したことです。信州大学建築学科が飛躍するときになりましょう。そして1000人を超す同窓会が卒業年次に関係なく絆を深めて“産”として建築学科を支援がされるように成長されることも期待しております。などなど思いついたまま書きましたが、信州大学で教育、研究に携わることができましたことは、私にとって誇りです。今後さらに信州大学建築学科が発展、活性化することを祈念いたします。

私の現在ですが、今年4月から工学部西隣に小さな研究室を開設しました。音響と温熱、省エネルギーに関するコンサルタントとして、これまでの研究の継続と産業界と大学とのつながりに少しでも役にたてたらとの気持ちです。機会がありましたら、是非お立ち寄り下さい。下記に連絡先を記します。ありがとうございました。

山下研究室 山下 恭弘
〒380-0928 長野市若里4-5-6
tel 026-213-4092
fax 026-213-4963
yamalab@angel.ocn.ne.jp

2008.9月未

